

JR食品工場 来秋操業

十日町 川西地区 米粉で焼き菓子製造

計画概要

JR東日本が地域との店舗などで販売する方共生策の一環で、十日町針。十日町市川西地区の市に建設を計画している食品工場の概要が18日、電所隣接地に今夏着工分かった。地元産の米粉を使った焼き菓子などを製造し、グループ会社の工場は鉄骨工階建て、

床面積約1200平方メートルで、社有地の一部と隣接地を合わせて敷地を確保する計画。JR東日本の100%子会社「日本レストラムエンタプライズ」が運営する。新工場

での製造品目は未定だが、一般向けのほか、小麦粉と卵、牛乳を使わないアレルギー対応の商品製造を検討しているという。

従業員は当初25人程度。JR東日本は「販路

拡大と販売量の増加に努め、最大で50人程度を目標としている」とする。

工場建設計画は10年3月、違法取水問題に伴う水利権再申請に当たり、十日町市側の要望を受け

たJR東日本が「地域経済に関する貢献」の一つとして提案。3年かかった経緯について同社は「将来を見据え、地域に根差した経営が大事なので、慎重に準備を進めた」としている。

十日町市の関口芳史市長は「市の産業振興、雇用拡大に大きく寄与する事業。市と共生するシンボルとして発展していくことを望む」と期待を述べた。